

第三次箕面市子どもプランの進捗状況について

プランに掲載されている各事業の、これまでの取組と今後の課題をとりまとめました（参考資料1）。本資料は、全事業のなかから、施策体系ごとに主要な事業を取り上げたものです。

1. 家庭・地域における子育て環境の充実（プラン p.30）

保護者が悩むことの多い家庭教育では、社会からの支援が必要です。しかし、日頃から関係性のある支援先でなければ、子育て家庭は、なかなか悩みを打ち明けたり、支援を受けたりすることに至りません。そこで、日頃から広く様々な子育て資源を開放していくとともに、“出向く”支援に力を入れていきます。

また、発達上支援を必要とする子どもに対しては、子どもがのびのびと育ち、保護者が安心して子育てができるよう、きめ細かい支援を子どもの成長段階で途切れることなく実施していきます。

○「みのお子育て応援ガイドブック」の発行

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
妊娠期から小学校入学前までの親子を対象に、母子保健事業や就学時健診を通じて各時期に必要な子育ての方法や情報を伝える「箕面子育て応援ブック」（全7冊と冊子を綴るためのバインダー）の制作を進めています。平成30年4月から配布予定です。	情報を必要としているかたに、タイムリーに、かつ対面で情報提供していきます。また、内容の充実に努めます。

* 子ども未来創造局子どもすこやか室

* 参考資料2(箕面子育て応援ブックのイメージ)

○地域に飛び出す子育て支援センター

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
市内全域の公共施設を利用して、在宅の子育て家庭が気軽に集える出張子育てひろばを開催し、保育士と保健師が対応することで、親子の交流、つながり作りや子育て情報の提供を行っています。子育て支援センターに来所しづらい森町及び彩都地区での開催を手厚くするとともに、市内全域での開催場所を増やし、27年度に109回、28年度に168回開催し、29年度は246回の開催を予定しています。	出張子育てひろばの実施内容を更に充実させ、多くの親子の外出促進を図ります。

* 子ども未来創造局子育て支援課

○療育の充実

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
発達上支援を必要とする子どもをもつ家庭への支援にあたり、母子保健事業、保育園、幼稚園等と連携し、児童発達支援事業所あいあい園において、就学前の療育を行いました。 また、障害児通所支援の利用にあたり、制度内容や社会資源等の周知に努めました。	継続して実施します。

* 子ども未来創造局子どもすこやか室

○子どもを守るための地域ネットワーク機能の強化

○早期発見・早期対応への取り組みの強化

平成29年12月、市内の4歳児が虐待により死亡した事件を受け、再発防止策を講じます。

* 子ども未来創造局男女協働・家庭支援室

* 参考資料3

2. 保育・教育サービスの質的・量的充実（プラン p.39）

保育所や幼稚園などの就学前保育・教育サービス及び学童保育や地域子育て支援センターなどの子育て支援サービスの提供量を定めています。

※資料3 参照

3. 子育て世代に対する労働環境の整備（プラン p.75）

保護者にとっては、安心して子育てできることだけでなく、仕事や社会参加等と子育てのバランスを保つことも大切です。そこで、保護者が働きやすい労働環境を整備するため、企業等への啓発に取り組むとともに、子育て世代に対する就労支援を進めます。また、その基盤として、男女協働参画社会の形成に向けた啓発を行います。

また、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図るため、保護者の就労対策だけでなく、子どもの自立支援策を実施します。

○講座等の実施

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
男女協働参画に関する講演会「女性のための再就職準備」を実施しました。また、らいとぴあ21にて、男女協働・家庭支援室主催の展示会等を実施しました。	継続して実施します。

＊人権文化部人権施策課、子ども未来創造局男女協働・家庭支援室

○就労に関する相談、助言、指導

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
地域就労支援事業における就労・労働相談を行いました。また、「みのおワーキングニュース」を年3回発行し、市内公共施設等に配架することにより各種制度等の情報提供を行いました。	相談員が積極的に研修を受ける等、研鑽をすることで相談業務の充実を図ります。また、「みのおワーキングニュース」への掲載内容の充実を図ります。

＊地域創造部質面営業室

○学力保障・学習支援

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
不登校や病気による長期欠席、生活困窮家庭等の児童生徒等に対し、学生等サポーターを派遣し支援を行うことで、登校日数の増加、学習意欲の向上、対人スキルの向上等の効果がありました。	支援が必要な児童生徒等の登校の再開や定着等に努めます。

＊子ども未来創造局人権施策課

4. 子どもの遊び場づくり（プラン p.78）

子どもは、自由にのびのびと遊ぶ中で、自然や社会のルール、人間関係を学んでいきます。しかし近年では、都市化等、環境の変化や情報化の進展により子どもの遊び場・遊び方が変化しています。環境の変化をふまえ、子どもの成長や安全に配慮しながら、子どもの自主性や感性を育むことのできる遊び場を確保していきます。

○施設の一室を長期休業期間等に子どもの居場所として開放

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
らいとぴあ21で、子どもの居場所・自由な利用スペースを確保するとともに、自主学習スペースを提供しました(通年)。	子どもの居場所に対するニーズを把握しながら、継続して実施します。

＊子ども未来創造局人権施策課

○新放課後モデル事業

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
豊川北小学校・中小学校において実施し、従来の「学童保育」と「自由な遊び場開放」に加え、宿題などの自習ができる「スタディルーム」や楽しく学習・運動・体験ができる「活動プログラム」などを設け、多様な放課後の居場所づくりを進めました。 運営について箕面市社会福祉協議会への委託から平成 30 年度より市直営に移行します。	平成 30 年度より市直営にて運営を行い、全校実施に向け、引き続き検討を進めます。 また、「スタディルーム」の学習指導員を1教室あたり1名増員し、きめ細かな学習支援を実施するとともに、子ども成長見守りシステムにより学習支援施策の客観的な効果分析を行います。

＊子ども未来創造局学校生活支援課

5. 子どもの文化的・社会的活動の支援（プラン p.81）

子ども自らが創造的な子ども文化をはぐくみ、のびのびと成長することで、自らの可能性を広げることができるよう、豊かな自然や地域の歴史文化、多様な文化、地域の大人等、様々な体験や人との出会いやコミュニケーションを通じてつながる機会を確保していきます。

○自然体験プログラムの提供

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
指定管理者と協働して、平成 27 年度に 31 件、平成 28 年度に 29 件、平成 29 年度に 30 件（見込み）のプログラムを実施しました。	継続して実施します。

＊ 子ども未来創造局青少年育成室

○青少年文化祭の開催

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
平成 27 年度に 33 団体、平成 28 年度に 31 団体、平成 29 年度に 35 団体が日頃の活動の成果を発表しました。	展示・舞台（土・日）の 3 部会に分け、参加団体による自主的な運営へのシフトを図ります。

＊ 子ども未来創造局青少年育成室

○子どもが社会体験できる場や機会の提供

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
みのお市民活動支援金（夢の実支援金）の交付により、市民活動団体による子どもを対象とした事業展開を支援しました。らいとぴあ21では、自主サークルや外出活動による体験促進や、仕事体験事業を実施しました。	みのお市民活動支援金（夢の実支援金）の交付を継続して実施し、多様な事業展開を支援します。また、らいとぴあ21では、社会体験できる場の充実、系統化、ロールモデルとなる人材の発掘を図ります。

＊ 人権文化部生涯学習・市民活動室、人権施策課

○乳幼児をもつ保護者の図書館利用の促進

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
中央図書館ではにぎやかエリアにて終日、その他の図書館では週に一度の「すくすくタイム」を実施し、また、はじめてのおはなし会を各館で実施するなど、図書館の親子利用を促進しました。	継続して実施します。

* 子ども未来創造局中央図書館

○学校と学校図書館における読書活動の推進

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
各校で、朝の読書、本の読み聞かせ、おすすめ本の紹介等を行いました。また、学校と学校図書館で連携し、ブックリストの作成や講座を開催しました。毎年11月に「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」を実施しています。	中学生の読書離れが課題です。幼少期や小学校低学年から本に親しむことが読書習慣の定着につながるので、学校図書館を活用した読書活動に取り組んでいきます。

* 子ども未来創造局学校教育室

6. 教育の充実と開かれた学校づくり（プラン p.86）

子どもたちの「豊かな育ち」と「確かな学び」を実現するため、子どもたちの主体的な学習活動を展開し、学習に対する興味・関心・意欲を喚起しながら、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図り、地域資源を活かした豊かな人間性と創造力を育む教育を推進します。また、こうした教育を行う学校が保護者や地域から信頼され、連携して教育環境を整えることができるよう、家庭や地域が学校運営に参画する場の活用を進めていきます。

○英語教育の充実

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
小学校 3～6 年において、複数 ALT による授業を実施し、全学年において 15 分モジュール授業を毎日（小 3～6 年は週 4 回）実施しました。またオリジナル指導案集の第 4 版を作成し、小学校の指導案および、中学校英語コミュニケーション科の指導案を小中一貫教育の視点を踏まえて改定をしました。	小学校高学年において、ALT 4 名による授業を実施すると共に、小学校低学年における 45 分授業を開始します。また中学校における英語コミュニケーション科において、より一層小中連携の視点を踏まえ、指導案等を整備します。

＊子ども未来創造局学校教育室

＊参考資料4

○箕面子どもステップアップ調査（箕面学力・体力・生活状況総合調査）

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
4月全国学力・生活状況調査、5月体力調査、6月生活状況調査、10月いじめアンケート、12月学力・生活状況調査、2月学校生活アンケートを実施し、分析を行い、今年度の取組の成果や課題をまとめました。	12月の学力調査は現在分析中ですが、4月の全国学力・学習状況調査結果から、「書くこと」に課題があることがわかったため、大阪府作成の「ことばの力」学習プリントを活用した授業づくりに取り組めます。

＊子ども未来創造局学校教育室

〔参考〕ICT を活用した教育の推進

箕面市では、平成30年度から市内全小学校4～6年生のすべての教室に、児童1人1台のタブレット端末を配備し、ICTを活用した教育を進めていきます。また、小中学校の全教職員にキーボード付きタブレット端末を配備し、業務負担の軽減を図ります。（参考資料5）

○家庭・地域の協力を得た、地域に開かれた学校運営の実施

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
学校協議会を学期に1回開催し、地域や保護者の声を学校の取組に反映するとともに、課題解決に向け、地域・保護者と協力関係を築きました。	継続して実施し、「チーム学校」として、地域との協働体制の確立、更なる充実を図ります。

* 子ども未来創造局学校教育室

○いじめ防止

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
無記名式アンケート調査によるいじめに関する実態把握を行った上で、聞き取り調査の実施や「いじめ対応マニュアル」などの活用を進めるとともに、自己肯定感や自己有用感を高める「成長を促す指導」を実施し、いじめが起こらないような学校づくりをすすめました。また、専用相談電話「いじめ・体罰ホットライン」を設置し、相談を受け付けています。相談を受けた後は、速やかに関係機関との連携を図り、早期対応、早期解決に向けて取り組みました。	「箕面市いじめ防止基本方針」「学校いじめ防止基本方針」に基づき、継続していじめの早期発見・防止対策に取り組みます。また、教職員間の共通理解を図るために研修会を実施します。子ども・保護者がさらに相談しやすくなるよう、「いじめ・体罰ホットライン」のみならず、スクールカウンセラーや教育センターでの教育相談も含め、多様な相談機関や手段に関する情報の発信、啓発に努めます。

* 子ども未来創造局学校教育室、教育センター

7. 健全育成と自立支援（プラン p.92）

子どもは、自らの目標に向かって個性や能力を伸ばしていくことで、未来を切り拓いていくことから、自己の個性や能力を発見し、将来の目標をもつための教育や相談支援を推進します。また、問題行動が起きたりした場合には、早期に発見し、専門的な対応ができるよう、関係機関による連絡調整や相談支援の体制を整えていきます。

○進路指導・追指導・キャリア教育の充実

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
キャリア教育の観点を重視して、各中学校では職場体験や進路指導を実施、小学校においては、地域の商店街で働く方をゲストティーチャーとして招いたり、工場見学を実施しました。 らいとぴあ21では、中学・高校からの職場体験、ボランティア体験、仕事体験学習プログラム等を実施しました。	小学校・中学校でのそれぞれの取組を、教育活動全体の取組として捉え、児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、各中学校区のキャリア教育全体計画を作成・修正しながら、キャリア教育の充実を図ります。 らいとぴあ21の取組では、受け入れ先の企業・団体の開拓、高校等との連携を図ります。

＊子ども未来創造局学校教育室、人権文化部人権施策課

○教育相談・学校訪問の実施・スクールカウンセラーによる相談

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
学校、教育センター相談室、青少年指導センターにおいて相談支援を行うほか、学校から依頼のあった相談については学校訪問を実施しました。	関係機関と連携をする等、相談体制の充実を図ります。

＊子ども未来創造局教育センター、青少年指導センター

8. 世代をつなぐ生涯学習・交流の促進（プラン p.95）

子どもが地域の大人と接することは、社会性の育成や人生やものの大切さ、伝承文化に対する学びにつながります。また、地域で子どもを育てる意識の醸成にもつながります。

○生涯学習、地域活動の充実

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
親子で参加できる講座を行いました。地域交流の場となる貸館運営を行いました。	参加しやすく、仲間づくりのきっかけとなる講座づくりに努め、参加者の拡大を図ります。

＊子ども未来創造局生涯学習・市民活動室

○地域福祉活動における世代間交流の促進

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
ペタンク大会、グランドゴルフ大会、昔遊びなど各地域での特色を活かした世代間交流事業を H28 年度は 49 回実施し、延べ 23,679 人が参加しました。H29 年度も H28 年度と同様 50 回程度実施する予定です。	参加者の固定化や担い手不足等の課題があるため、活動内容を知らせたりボランティアの参加を促すための広報活動や声かけを行っていきます。

＊健康福祉部健康福祉政策室

以上